(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2012-140137
(P2012-140137A)
(43)公開日　平成24年7月26日(2012.7.26)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 47/06	(2006.01)	B65D	47/06	S	3E084
B65D 47/08	(2006.01)	B65D	47/08	F	4C047
B65D 83/04	(2006.01)	B65D	83/04	G	
A61J 1/03	(2006.01)	A61J	1/00	370A	

審査請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 8 頁）

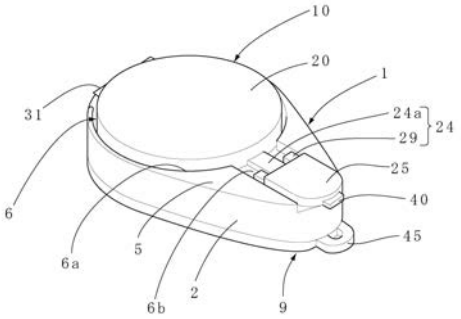
(21)出願番号　特願2010-292295 (P2010-292295)
(22)出願日　平成22年12月28日 (2010.12.28)

(71)出願人　000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島３丁目２番６号
(74)代理人　100113169
弁理士　今岡　憲
(72)発明者　上村　英夫
大阪府茨木市宇野辺１丁目６番９号　株式会社吉野工業所大阪工場内

Ｆターム(参考)　3E084 AA05 AA24 AB05 BA03 CB02 CB03 CB04 CC03 DB13 GA06 GA08 GB06 GB12 LB03
4C047 CC15 DD03 DD05 DD22 DD32 DD33

(54)【発明の名称】錠剤容器

(57)【要約】
【課題】開蓋が容易で、かつ、錠剤の振り出しも容易な錠剤容器を提供する。
【解決手段】容器本体（１）の周壁（２）上面を閉塞する頂壁（５）に充填口（７）と吐出口（８）とを形成し、前記充填口（７）へ嵌合させた充填口用蓋（２０）からヒンジ（２４）を介して突設した吐出口用蓋（２５）を前記吐出口（８）へ嵌合させ、前記ヒンジ（２４）を前記吐出口用蓋（２５）を閉蓋方向へ付勢する弾性板（２４ａ）と、前記吐出口用蓋（２５）から前記弾性板（２４ａ）の両側へ突設する脚片（２９）とで構成し、前記吐出口用蓋（２５）は、ヒンジ（２４）と対向する吐出口用蓋（２５）部分を持ち上げることで開蓋可能に設けた。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
容器本体（１）の周壁（２）上面を閉塞する頂壁（５）に充填口（７）と吐出口（８）とを形成し、前記充填口（７）へ嵌合させた充填口用蓋（２０）からヒンジ（２４）を介して突設した吐出口用蓋（２５）を前記吐出口（８）へ嵌合させたことを特徴する錠剤容器。
【請求項２】
前記ヒンジ（２４）は前記吐出口用蓋（２５）を閉蓋方向へ付勢する弾性板（２４ａ）と、前記吐出口用蓋（２５）から前記弾性板（２４ａ）の両側へ突設する脚片（２９）とから構成され、前記吐出口用蓋（２５）は、前記ヒンジ（２４）と対向する吐出口用蓋（２５）部分を持ち上げることで開蓋可能に設けたことを特徴とする請求項１記載の錠剤容器。
【請求項３】
前記充填口用蓋（２０）を前記容器本体（１）からヒンジ（３１）を介して突設したことを特徴とする請求項１又は２記載の錠剤容器。
【請求項４】
前記充填口用蓋（２０）および吐出口用蓋（２５）を前記容器本体（１）と別体に形成したことを特徴とする請求項１又は２記載の錠剤容器。
【請求項５】
前記充填口用蓋（２０）と前記吐出口用蓋（２５）との天面からそれぞれ第１嵌合筒（２１）と第２嵌合筒（２６）を垂下して、該第１嵌合筒（２１）を前記充填口（７）へ、第２嵌合筒（２６）を前記吐出口（８）へ、それぞれ嵌合させたことを特徴とする請求項１から４のいずれか１項記載の錠剤容器。
【請求項６】
前記周壁(２)は、外筒(２ａ)の上端からフランジを介して内筒(２ｂ)を垂下して内外二重筒に形成し、該内外二重筒の前部に凹部(３)を形成すると共に、該凹部(３)に嵌合部材(４)を嵌合させ、前記充填口用蓋（２０）をヒンジ（３１）を介して前記嵌合部材(４)へ連結させ、さらに、底板(９ａ)周縁から起立させた起立筒(９ｂ)を周壁(２)下部の内外筒(２ａ、２ｂ)間内へ凹凸の係合手段を介して抜出し不能に嵌合させたことを特徴とする請求項１から５のいずれか１項記載の錠剤容器。
【請求項７】
前記周壁(２)は、外筒(２ａ)の上端からフランジを介して内筒(２ｂ)を垂下して内外二重筒に形成し、前記外筒(２ａ)の前部上端から薄肉ヒンジ(３１)を介して充填口用蓋(２０)を突設すると共に、底板(９ａ)周縁から起立させた起立筒(９ｂ)を周壁(２)上部の内外筒(２ａ、２ｂ)間内へ凹凸の係合手段を介して抜出し不能に嵌合させたことを特徴とする請求項１から５のいずれか１項記載の錠剤容器。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は錠剤等を収納する詰替え可能な錠剤容器に関する。
【背景技術】
【０００２】
容器本体の頂壁に径が異なる充填口と吐出口とを形成すると共に、容器本体の前後両側からヒンジを介して充填口用蓋と吐出口用蓋とを突設した錠剤容器が従来技術として知られている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００８－１１８７１号公報

【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、従来技術では、充填口用蓋と吐出口用蓋とが容器本体の前後両側からヒンジを介して突設されているため、開蓋するためには、ヒンジと対向する蓋部分を持ち上げなければならないため、換言すれば、蓋を内から外方向へ回動させなければならないため、あけ難く、また、錠剤を振り出す際の錠剤の吐出路に吐出口用蓋が位置するため錠剤を振り出し難いという課題があった。
【０００５】
本発明は、上記課題を解決するためになされたもので、開蓋が容易で、かつ、錠剤の振り出しも容易な錠剤容器を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上記課題を解決するために、本発明は、容器本体１の周壁２上面を閉塞する頂壁５に充填口７と吐出口８とを形成し、前記充填口７へ嵌合させた充填口用蓋２０からヒンジ２４を介して突設した吐出口用蓋２５を前記吐出口８へ嵌合させたことを特徴する。
【０００７】
また、本発明は、前記ヒンジ２４は前記吐出口用蓋２５を閉蓋方向へ付勢する弾性板２４ａと、前記吐出口用蓋２５から前記弾性板２４ａの両側へ突設する脚片２９とから構成され、前記吐出口用蓋２５は、前記ヒンジ２４と対向する吐出口用蓋２５部分を持ち上げることで開蓋可能に設けたことを特徴とする。
【０００８】
さらに、本発明は、前記充填口用蓋２０を前記容器本体１からヒンジ３１を介して突設したことを特徴とする。
【０００９】
さらに、本発明は、前記充填口用蓋２０および吐出口用蓋２５を前記容器本体１と別体に形成したことを特徴とする。
【００１０】
さらに、本発明は、前記充填口用蓋２０と前記吐出口用蓋２５との天面からそれぞれ第１嵌合筒と第２嵌合筒を垂下して、該第１嵌合筒２１を前記充填口７へ、第２嵌合筒２６を前記吐出口８へ、それぞれ嵌合させたことを特徴とする。
【００１１】
さらに、本発明は、前記周壁は、外筒２ａの上端からフランジを介して内筒２ｂを垂下して内外二重筒に形成し、該内外二重筒の前部に凹部３を形成すると共に、該凹部３に嵌合部材４を嵌合させ、前記充填口用蓋２０をヒンジ３１を介して前記嵌合部材４へ連結させ、さらに、底板９ａ周縁から起立させた起立筒９ｂを周壁２下部の内外筒２ａ、２ｂ間内へ凹凸の係合手段を介して抜出し不能に嵌合させたことを特徴とする。
【００１２】
さらに、本発明は、周壁２は、外筒２ａの上端からフランジを介して内筒２ｂを垂下して内外二重筒に形成し、前記外筒２ａの前部上端から薄肉ヒンジ３１を介して充填口用蓋２０を突設すると共に、底板９ａ周縁から起立させた起立筒９ｂを周壁２上部の内外筒２ａ、２ｂ間内へ凹凸の係合手段を介して抜出し不能に嵌合させたことを特徴とする。
【発明の効果】
【００１３】
本発明は、充填口用蓋からヒンジを介して吐出口用蓋を突設したので、開蓋するには、蓋を外から内方向へ回動させればよく、したがって、開蓋が容易だけでなく、吐出口用蓋は錠剤の吐出路と対向する側に位置するため、錠剤の振り出しの邪魔になることがない。
【００１４】
また、本発明は、ヒンジは吐出口用蓋を閉蓋方向へ付勢する弾性板と、弾性板の両側へ突設する脚片とから構成され、吐出口用蓋は、ヒンジと対向する吐出口用蓋部分を持ち上

げることで、脚片が立ち上がって弾性板の両側に位置し、弾性板がほぼ屈曲限度に達した時点で、脚片が反転して吐出口用蓋２５を開蓋状態に保持するため、吐出口用蓋の起立が安定して行えると共に、振り出し後は吐出口用蓋は弾性板と脚片とにより閉蓋方向へ付勢されるため吐出口用蓋は自動的に閉蓋される。

【００１５】

さらに、本発明は、充填口用蓋を容器本体の周壁からヒンジを介して突設したので、充填口用蓋と吐出口用蓋を容器本体と一体に成形することができる。

【００１６】

さらに、本発明は、充填口用蓋および吐出口用蓋を容器本体と別体に形成したので、充填口用蓋および吐出口用蓋と容器本体の色彩を異ならせることができてデザイン上の自由度を増大させることができると共に、蓋を透明にすることで容器体内の残量等を確認することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１７】

【図１】本発明に係る錠剤容器の斜視図である。

【図２】図１の平面図である。

【図３】図１の側面図である。

【図４】吐出時の作用説明図である。

【図５】充填時の作用説明図である。

【図６】他の実施形態を示す図５相当図である。

【発明を実施するための形態】

【００１８】

以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しながら詳細に説明する。なお、説明の便宜上、図面において左右方向を前後方向とする。

【００１９】

図１において、１は容器本体で、周壁２と、周壁上面を閉塞する頂壁５と、周壁２下面を閉塞する底蓋９で構成する。

【００２０】

周壁２は、外筒２ａの上端からフランジを介して内筒２ｂを垂下して内外二重筒に形成し、該内外二重筒の前部に凹部３を形成すると共に、凹部３の下面を構成するフランジ部分と該フランジ部分から垂下する内筒２ｂ部分との角部に嵌合部材４を嵌合させる。

【００２１】

周壁２の上面を閉塞する頂壁５は、内筒２ｂ上面を閉塞する閉塞板５ａの前部を下方へ屈曲して嵌合部材４の内面へ当接させると共に、閉塞板５ａの上面に凹部６を形成して、凹部６の前部を円形状の円形凹部６ａに形成すると共に、後部を円形凹部６ａの直径より小さい幅の溝状凹部６ｂに形成する。そして、円形凹部６ａ内に充填口７を形成すると共に、溝状凹部６ｂ内に充填口７より小径の吐出口８を形成する。

【００２２】

周壁２の下面を閉塞する底蓋９は、底板９ａ周縁から起立させた起立筒９ｂを周壁２下部の内外筒２ａ、２ｂ間内へ凹凸の係合手段を介して抜出し不能に嵌合させている。

【００２３】

１０は上蓋で、充填口用蓋２０と吐出口用蓋２５とで構成する。充填口用蓋２０は、充填口７へ嵌合させた第１嵌合筒２１の上面を閉塞する天板２２の周縁から覆筒２３を垂下して円形凹部６ａ内へ嵌合させると共に、覆筒２３の後部下端からヒンジ２４を介して吐出口用蓋２５を突設する。

【００２４】

吐出口用蓋２５は吐出口８へ嵌合させた第２嵌合筒２６の上面を閉塞する天板２７の周縁から覆筒２８を垂下して溝状凹部６ｂ内へ嵌合させる。

【００２５】

ヒンジ２４は充填口用蓋２０の覆筒２３の後部下端から後方へ突出して吐出口用蓋２５

の覆筒２８へ一体に連結する弾性板２４ａと、該覆筒２８前部の左右両側から弾性板２４ａ後部の左右両側へ突出する脚片２９とで構成する。なお、弾性板２４ａには、弾性変形を容易にするため左右方向への細溝を形成する。

【００２６】

上蓋１０は容器本体１と別体に構成することも可能であるが、薄肉ヒンジ３１を介して容器本体１の周壁２の凹部６へ嵌合させた嵌合部材４から上蓋１０を突設することで上蓋１０と容器本体１とを一体に形成することもできる。なお、４０は吐出口用蓋２５の後端に設けられた摘み部、４５は底蓋９の後部から後方へ突設するリング部である。

【００２７】

次に作用について説明する。

図１ないし図３は不使用時の閉蓋状態を示す。容器本体１内の錠剤Ｔを振り出すには、摘み部４０を介して吐出口用蓋２５を弾性板２４ａの付勢力に抗して前方へ回動させて開蓋すればよく、すると弾性板２４ａが屈曲すると共に、左右一対の脚片２９が立ち上がる。そして、図４に示すように弾性板２４ａが屈曲限度に達すると、脚片２９が反転により弾性板２４ａを前方へ変形させると共に、脚片２９自体が前方へ傾斜して吐出口用蓋２５を開蓋状態に保持する。したがって、弾性板２４ａが屈曲限度に達した後は、摘み部４０から手を離しても吐出口用蓋２５は自動的に開蓋される。

【００２８】

錠剤Ｔの振り出し後、閉蓋するには吐出口用蓋２５の摘み部４０をもって後方へ回動させればよく、すると脚片２９が上記と逆方向へ反転して弾性板２４ａを変形させると共に、脚片２９自体が後方へ傾斜することで弾性板２４ａと共に吐出口用蓋２５に閉蓋方向への力を付与するため、吐出口用蓋２５は後方へ回動して自動的に閉蓋する。上記のように吐出口用蓋２５の開閉時において、脚片２９が弾性板２４ａを変形させるため、開閉時におけるスナップ感が得られる。

【００２９】

容器本体１内へ錠剤Ｔを充填するには、吐出口用蓋２５の摘み部４０をもって吐出口用蓋２５を図４に示すように開蓋させ、ここからさらに吐出口用蓋２５の摘み部４０を介して吐出口用蓋２５を持ち上げればよく、すると図５に示すように充填口用蓋２０が前方へ回動して開蓋する。

【００３０】

図６は他の実施形態を示すもので、本実施形態では嵌合部材４を省略する点で第１の実施形態と相違する。すなわち、周壁２は、外筒２ａの上端からフランジを介して内筒２ｂを垂下して内外二重筒に形成する点では第１実施形態と同一であるが、本実施形態では、該内外二重筒の前部に凹部３を形成して該凹部３内へ嵌合部材４を嵌合させることなく、外筒２ａの前部上端から薄肉ヒンジ３１を介して充填口用蓋２０を突設する。

【００３１】

周壁２の下面を閉塞する底蓋９は、底板９ａ周縁から起立させた起立筒９ｂを周壁２上部の内外筒２ａ、２ｂ間内へ凹凸の係合手段を介して抜出し不能に嵌合させる。その他の構成は第１実施形態と同一であるから説明を省略する。

【産業上の利用可能性】

【００３２】

本発明は、錠剤等を収納する詰替え可能な錠剤容器の分野に利用することができる。

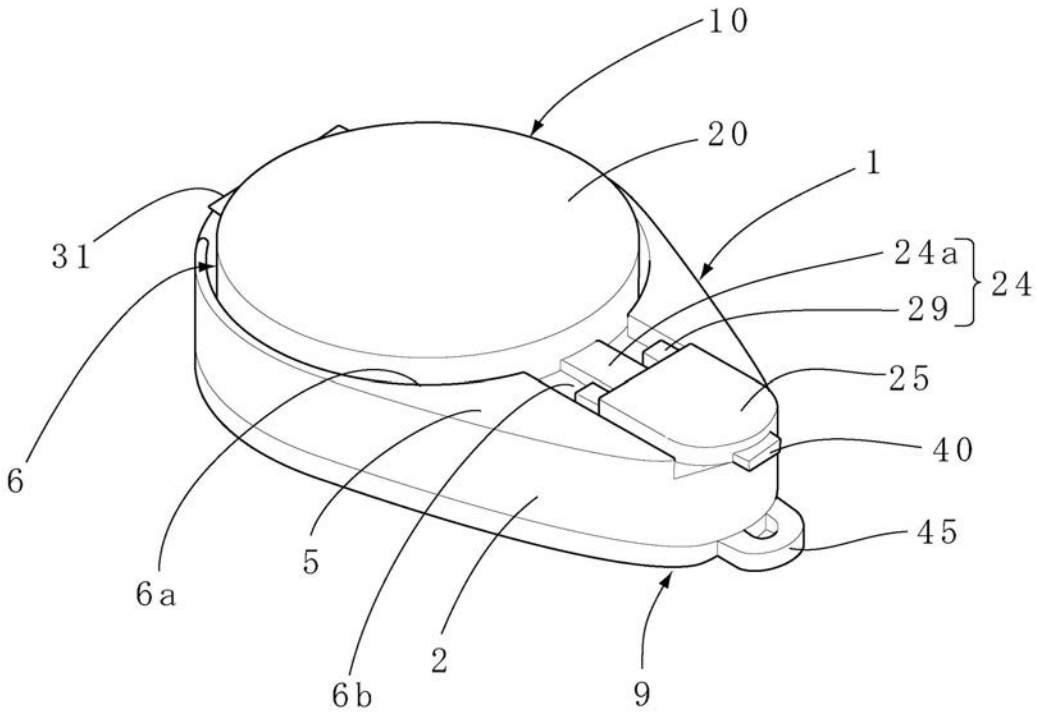
【符号の説明】

【００３３】

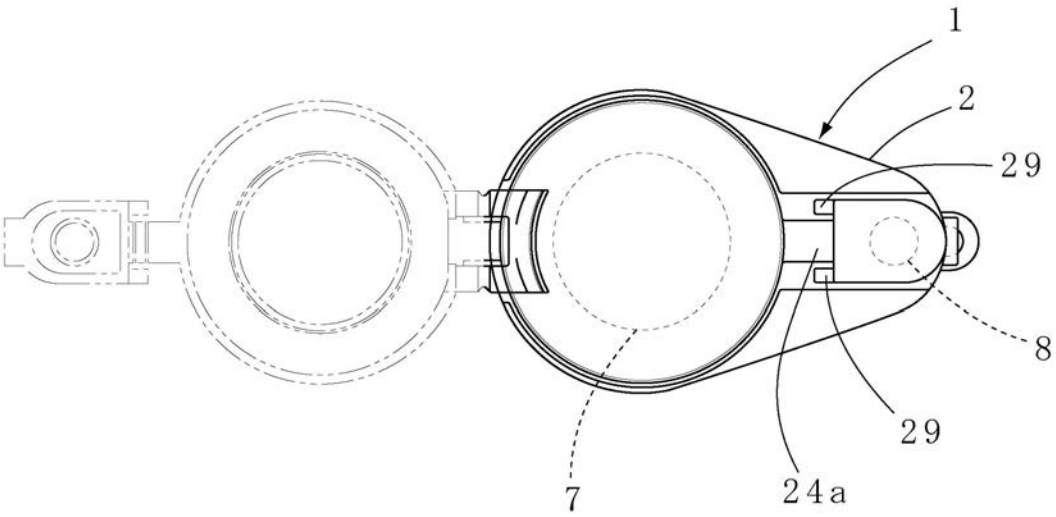
１　容器本体
２　周壁
７　充填口
８　吐出口
２０　充填口用蓋
２１　第１嵌合筒

２４　ヒンジ
２４ａ　弾性板
２５　吐出口用蓋
２６　第２嵌合筒
２９　脚片

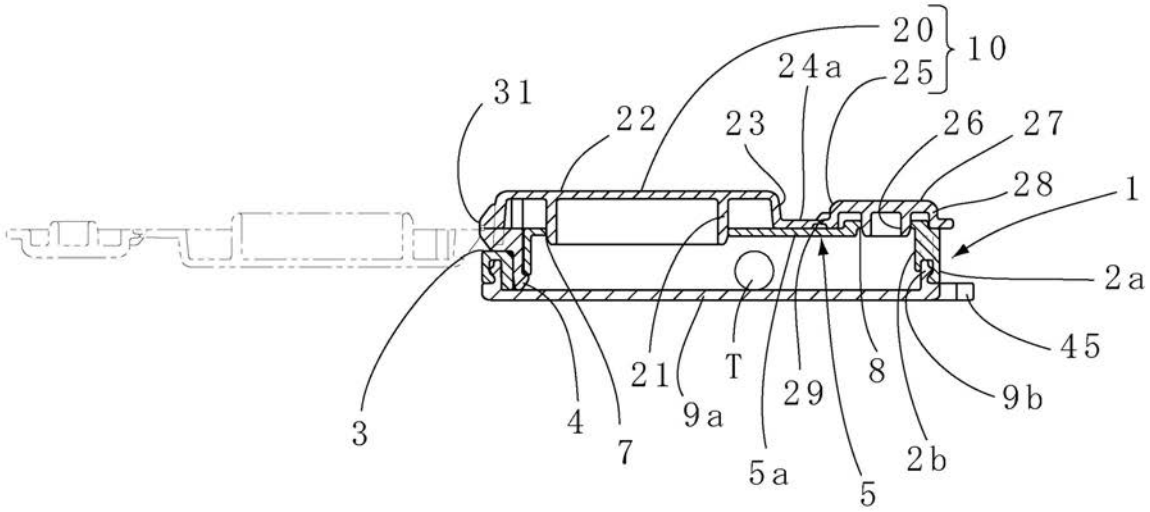
【図１】



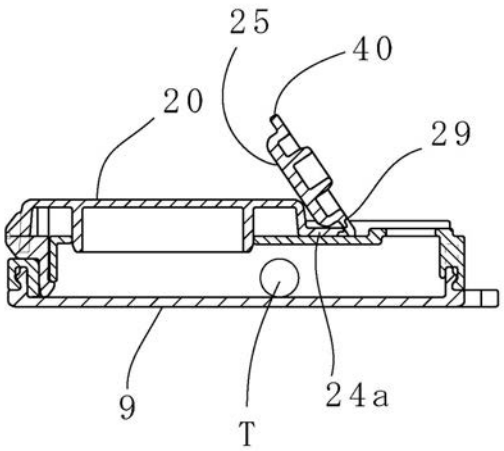
【図２】


1
2
29
8
29
24a
7

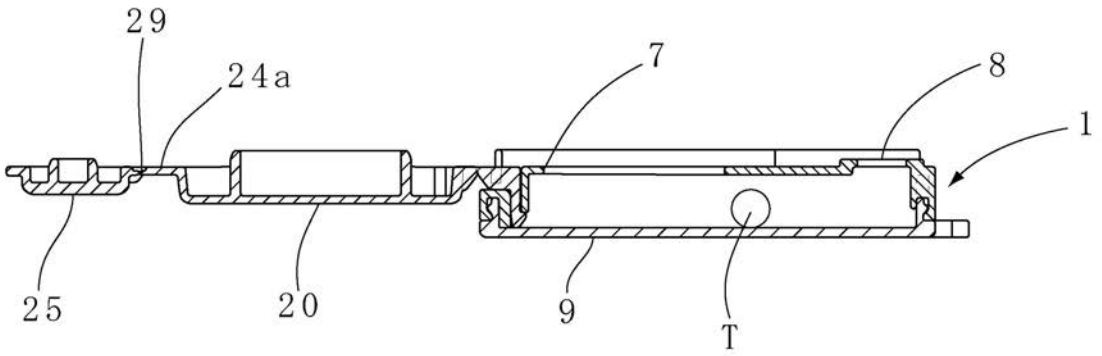
【図３】


20
10
25
24a
31
22
23
26
27
28
1
2a
45
3
4
7
21
9a
T
29
8
9b
5a
5
2b

【図４】


25
40
20
29
9
T
24a

【図５】



【図６】

